

教会共同受講のおすすめと教会の取り組み ② 多摩みぎわキリスト教会 石井 規之



わたしたちの教会では6人が神学特講「ヨハネ福音書を読む」を共同受講しています。当初の計画では、ライブの時間に集まることができないので毎週水曜日の午後集まって受講する予定でした。しかし、3月1日の礼拝を最後にコロナウィルスのために教会閉鎖となり、現在はライブ配信による日曜礼拝と毎週土曜日の「誰でも食堂」だけが行われています。(誰でも食堂は社会的要請が大きいということでお弁当配布をし

ています。) そんな中で、水曜日に各自同じ時間に受講し、感想や質問を牧師にメール送信、それをみんなで共有し、必要があれば講師の先生に質問にお答えいただくという形にしています。「今まで気が付かない角度から読むことができた」、「他の受講生の学ぶ姿に励ましを受けた」、「とにかく楽しい」というような感想と共に、「講師の先生のお話は納得がいかない」というものまでさまざまな声が寄せられます。共感したり、また納得できない読み方に触れることによって豊かな会話が成り立ちます。みんなで集まって受講することができるのを待ち望んでいますが、それができない今、どのようにすれば「共に」学ぶことができるかを模索しながら受講しています。

神学校献金・後援会献金（2019年度）

2019年度東京バプテスト神学校への献金は、後援会献金1,958,000円（前年度912,400円）、教会・集会献金3,986,041円（前年度3,702,756円）でした。皆様の尊い献金を感謝します。

2019年度 後援会献金（個人） 97名 122件 合計 1,958,000円

芦沼光雄、伊藤真知子(2)、井上昭子(2)、井上政博、井本義孝、吉崎基子、稲山良二、越智満、奥谷恭子、奥谷由行、奥田光子、奥田厚子、奥田稔(2)、下舞賢一、下門秀子、加山礼子(2)、加藤郁雄(2)、岩瀬ミチ(2)、菊地正弘(2)、金香泰誠、熊木和子、古川博子(2)、戸井田敦子、後藤ますみ(2)、江原美歌子、高良相子、高柳美枝子、坂元幸子(2)、坂川里味、鮫島泰子、三木朋美、三木睦美、山崎清美、山本弘夫、四津明美、秋山信夫・純子、十時節子(2)、小笠原與志一、小勝琢生(3)、小松澤一枝(2)、小平公憲、小柳隆司(2)、松村誠一、松田俊介、松田朝子、常廣澄子(2)、森山ひろみ、森田敏夫、神山武、杉山初美、瀬戸口早苗、星田恒、西方泉、石垣茂夫(2)、石水美佐子、川平朝清、川平朝清、染森哲朗、村松理恵子、対田順明、大下仁、大城戸禮子、大矢公子、竹内正幸、中根浄、樽澤和子、鳥山美恵(2)、辻眞理子、鶴野博子、田村俊彦、田中宣之、渡部富夫(2)、都丸利子(2)、土井正雄、東方敬信、藤井秀一、那須幸子、内藤淳一郎、内藤将子、飯野賢、水川英俊、富田信恵、福本峻平(2)、文廷翼、米田景子、豊永義典、豊福義彦、北野弘子(2)、木元和子、木原敬子、木村一充・まどか、木村晋治、矢野由美、鈴木幸子、鈴木宗一、鈴木登喜子、澤田猛

日立バプテスト教会(2)、飯能バプテスト教会

【神奈川地方連合】教会・伝道所

ふじみキリスト教会、綾瀬小園キリスト教会、横浜 JOY バプテスト教会、横浜ニューライフバプテスト教会、横浜戸塚バプテスト教会、横浜大和町キリスト教会、港南めぐみキリスト教会、座間バプテストキリスト伝道所、湘南台バプテスト教会、青葉キリスト教会(2)、川崎バプテスト教会、相模中央キリスト教会、大秦野バプテスト教会、藤沢バプテスト教会、百合丘キリスト教会、洋光台キリスト教会

【その他】教会・伝道所

姫路城西キリスト教会、小倉キリスト教会、金沢キリスト教会、南名古屋キリスト教会、鮫バプテスト教会、大和愛宣伝道所、八幡浜バプテスト教会

連合別内訳

東京 1,510,415 円、北関東 1,361,634 円、神奈川 512,250 円、その他 62,268 円

2019年度 集会献金 14件 合計 539,474円

入学礼拝席上献金、東ブロック女性集会、北ブロック女性会、東京地方連合南ブロック女性会、夏期講座開会礼拝献金、夏期講座閉会礼拝献金、神学校デー開会礼拝献金、東ブロック秋の集い席上献金、後期入学礼拝席上献金、北関東地方連合壮年会、冬期講座開会礼拝献金、冬期講座閉会礼拝献金、北関東地方連合壮年会、卒業礼拝席上献金

連合別内訳

東京 187,618 円、北関東 19,600 円、神奈川 0 円、その他 332,256 円

東京バプテスト神学校の働きを支援するために あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援
個人会員
年額1口 ¥5,000
何口でも歓迎いたします
2. 自由献金支援
支援額も、支援回数も
ご自由にお決めください。

郵便振替口座
00210-8-75658

東京バプテスト神学校後援会
※専用払込票をご希望の方は、
メールにてお申込下さい。



東京バプテスト神学校ニュース Tokyo Baptist Theological Seminary News

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ seminary@tbts.jp

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141
発行日：2020年6月11日 発行者：東京バプテスト神学校 坂元 幸子

巻頭言

「夏期講座講師から～創世記を通して学んでほしいこと」

上智大学 教授 月本 昭男 先生



創世記は冒頭に太古の「出来事」を伝える「原初史」(1～11章)とそれに続くイスラエルの父祖たちの物語(12～50章)から構成されています。近代以前には、これらの記述はそのまま歴史的事実と理解されてきました。しかし、自然科学が発達し、歴史学や考古学の知見が加わった現代では、原理主義に立つ教会を除き、そうした理解は影を落しました。加えて、学問としての聖書学の進展にもめざましいものがあります。ならば、現代人、とりわけキリスト教信仰を与えられた私たちは、創世記の記述をどのように読み、どのように理解したらよいのでしょうか。

この講義では、そうした問題意識をもって創世記という書物全体を見通してみたいと思います。あらかじめ、講師の視点をいくつか提示させていただきますと、以下のようなになるでしょう。

第一に、創世記の記述をそれらが記された背景である古代オリエント世界においてみることで、古代オリエントは人類が最初に文字文化を築いた場所でしたから、すでに旧約聖書が成立するはるか以前から、大量の文書を残しています。天地創造物語もあれば、洪水物語もあります。それらの記述を背後におくことにより、聖書の物語に籠められた思想と信仰が浮かび上がってくるのが少なくありません。第二に、今日的観点からすれば、旧約聖書の記述にはしばしば矛盾がみられますが、全体としてみますと、じつに周到に考え抜かれています。数字なども無視できません。それゆえ、全体を見渡しながらも、細部を見逃さずに読むことが肝要です。

第三に、旧約聖書の記述自体は簡潔です。くどい説明を加えないのです(その

点は福音書にも引き継がれています)。したがって、多くの場合、いくつもの解釈の余地が残されています。けっして、一つの正解が用意されているわけではありません。一つの正解があるかのように考える聖書学はまちがっています。

この最後のことと関係しますが、第四に、聖書には書かれていないことも少なくありません。ということは、それぞれの読者がそれぞれの関心をもって、聖書の記述に参加できるということです。別の言い方をすれば、聖書と読者の間に対話が成り立つということです。

本講義は時間が過ぎられていますので、細部に立ち入ることができませんが、以上のことを念頭におきながら、あらためて創世記という書物をひもといてまいりましょう。

教会共同受講のおすすめと教会の取り組み ①

西川口キリスト教会 四津 明美

2018年の春、伝道執事から「神学校の連続公開講座を教会で共同受講しましょう」とのお勧めがありました。公開講座の中に伝道のヒントになりそうなテーマが色々あり、私も興味を持ちました。以来、共同受講を続けて3年目に入ります。教会学校や聖研とはまた違う学びをすることで、教会や聖書の捉え方、そして自分の信仰がより立体的になってきたように思います。公開講座のお知らせが神学校から届くと、毎週週報に掲載します。「○○さん、一緒に受けよう」とお誘いもします。茗荷谷ではなく「教会」で、神学校の「信徒向け」の講座を、「お得」な料金で、見知った顔と「一緒に」に学べる、こんなにいいことはありません。ネットのことが分かってなくても、神学校事務局のしっかりしたサポート体制があり安心です。「時間が夜じゃなくて昼ならいいのに」という方のためには、事務局のご理解も



あり教会でのビデオ共同受講も開設でき喜ばれました。今回の「信徒のための説教II」は3月から主任牧師不在となった西川口にはとてもタイムリーでしたが、新型コロナのため少人数での受講です。自分が学んで「へー!」と思ったことを教会にフィードバックしていきたいと思っています。